

鹿子踊りを守れ ～新山にドロノキ植樹～

大槌町の郷土芸能、鹿子踊りのたてがみに使われるドロノキの植樹祭が4月27日、町内の新山高原でありました。約200名が参加し、ドロノキの苗を植樹しました。

植樹は20年前からドロノキの植樹をしている長野県上田市の信濃国分寺から助言をもらい、大槌自生のドロノキの種から200本の苗を育てました。伐採できる直径50センチほどの大きさになるまで、40年から50年ほどかかるといわれています。

ドロノキは節が少なく、まっすぐに成長するため、カンナで薄く削り、鹿子頭のたてがみとして使われています。しかし、伐採で本数が減ってきており、危機感を抱いた白澤鹿子踊保存会が中心になって植樹会を開催しました。

保存会会長の東梅英夫さんは「これからも毎年、植樹を続け、3,500本の木を育てたい」と抱負を述べました。



植樹祭には町内の鹿子踊り5団体が参加、植樹祭を祝い合同で群舞しました。群舞は400年に及ぶ鹿子踊りの歴史で初めてのことでした。参加した白澤鹿子踊保存会の佐々木楓さんは「合同での舞は難しいと思ったが、実際にやってみたら楽しかったです。植樹したドロノキが育てば、各団体に分けることもできます。他の団体と交流するいい機会になりました」と話しました。

災害公営住宅に自治会結成 ～新たなコミュニティづくりへ～

大槌町の災害公営住宅第1号として昨年8月に完成した「大ケロー丁目町営住宅」の自治会設立総会が5月18日に町営住宅の集会所で開かれました。会長に佐々木一雄さん(51)を選び、ごみ置き場の清掃、団地内の草刈り、盆踊りや新年会の開催など、今年度の事業を決めました。

町営住宅の入居者は70世帯。仮設住宅から転居し、初めて顔を合わせた被災者も多く、新たなコミュニティづくりが課題になっていました。入居開始以来、交流会や、新年会、幹事会、班別集会を重ねながら交流を深め、自治会の設立総会開催へとこぎつけました。

設立総会には委任状を含めてほとんどの住民が出席しました。会長、副会長などの役員を決め、▽月に1回役員会を開催する▽ゴミ収集日にごみ置場を清掃する▽7月と10月に草刈りをする▽高齢者に声をかける「見回り隊」の編成を検討する▽8月に盆踊り、1月に新年会を開く、ことを予定して



います。

会長に選ばれた佐々木さんは「高齢者の方が多く住んでおり、自治会結成をきっかけに、お年寄りを支える態勢を築き上げたい」と抱負を語りました。

大槌町内の災害公営住宅は最終的に980戸の建設が計画されています。2013(平成25)年度に125戸が建設され、今年度は187戸の建設が予定されています。大ケロー丁目町営住宅での自治会結成は、新たなコミュニティづくりのモデルケースになることでしょう。

「風の電話」が絵本に ～「森の図書館」で原画展～

大槌町吉里吉里地区に「風の電話」と呼ばれる電話ボックスがあります。震災の犠牲者と遺族が対話する空間です。「心の復興のきっかけになってほしい」。ガーデンデザイナーの佐々木格さん(69)が自宅の庭の一角に造りました。この実話をモデルに、絵本「かぜのでんわ」(いもとようこ著、金の星社)が出版され、4月から5月にかけて現地で原画展が開かれました。

「風の電話」ボックスには、線のつながっていないダイヤル式の黒電話があります。多くの人が訪れて、この電話で亡くなった人と心を通わせています。電話の横にあるノートには、次のような文章がつづられています。「平成23年5月13日。あの日から2カ月たったけど、母さんどこにいるの。親孝行できずにごめんね。会いたいよ。絶対、見つけてお家に連れて来るからね」

電話ボックスの中で大声で泣く人。一人静かにひっそりと帰る人。2回、3回とやってきて、やっと



受話器を手取る人……。佐々木さんは訪れた人たちに無理に話しかけずに、静かに見守ってきました。

こうしたエピソードを、童話作家のいもとようこさんはラジオで聴き、絵本にしました。山の上に線が繋がっていない電話があり、兄を失ったタヌキ、子や妻を亡くしたウサギやキツネが訪れて電話で話しかける物語です。原画展で展示された作品12点。柔らかなタッチで描かれ、鑑賞するひとたちの心に響きました。

第81明神丸が出航 ～大槌漁港で出航式～

5月12日(月)、家族や保育園児らに見守られて、大槌町所属の県内最大のイカ釣り漁船「第81明神丸」が赤浜で出港式を行いました。

汽笛を鳴らしながら、岸壁からゆっくりと船体が離れると、色とりどりの紙テープを握りしめた家族や園児たちは、「いってらっしゃい」のかけ声で第81明神丸を送り出しました。岸壁で見送る家族らに向かって、漁船員たちは船首で大きく手を振りながら、漁へと旅立っていきました。

第81明神丸は、東日本大震災で被災した第31明神丸の後継船で、国の支援制度などを活用して平成24年11月より漁を再開しています。

